

槇尾川ダムの対策委員長を務めております。前回の委員会で申し上げ足りなかったことについて、そしてまた皆さんのご意見のおかしいと思う点について、再度意見を申し述べたいと考えております。

まず第1に、反対の方々が、田畑が水に浸かってよいとか、昭和57年の大雨の被害が、川沿いの石垣が少し崩れた程度というようなことを述べられておりましたが、私は少し違うんじゃないかと思っております。昭和57年や平成7年の大雨では田畑も多大の被害を受けました。私たちのみかん畑や水田は長年にわたりまして手入れをし、守ってきた貴重な財産でございます。雨が降ったら、中流部の田畑が浸かってよいとか、あるいはまた、図面上で、ここに家がないから遊水池にしてはどうかというような意見は、実際に長く和泉市に住む者として、また、農業に携わっている方々の皆さんの気持ちを考えると、承服しかねます。さらに、川沿いの石垣が崩れた程度というのは、非常に災害に対する認識が違うのではなからうかと思っております。例えば昭和57年の8月当時の状況を思い出しますと、我々が住む横山校区、神田橋から上流、そしてまた垂井橋の上流、大川橋にかけまして大変な水害がございました。また、市街地の方におきまして、場所においてたくさんの方の浸水をしたと聞いております。先ほど数字を挙げておられましたが、何戸の家が浸水したかわかりませんが、とにかく多くの場所で浸水して、その後始末も大変だったことはよく覚えております。槇尾川沿いに住む私たちは、反対の方々の言う遊水池などの方法ではなく、ダムを含む抜本的な対策を望んでおるわけでございます。

第2に、地元の声を十分に聞いて治水対策を行っていくべきだという意見につきまして、全くそのとおりだと思います。槇尾川ダムでは、地元の大畑、坪井、仏並の3地区のほとんどがダム建設の推進を望んでいることは確かでありまして、7月2日に提出した要望書でもあらわしているとおりでございます。まさに私たちが地域のことにつきまして、自分たちの意思を表すことが重要であることを考え、署名活動を行いました。また一方で、川沿いで暮らしていない都市の皆さんは、自然が重要とか、あるいはまた緑が必要と言っておられますが、地元の私たちの要望をよくご理解のほどをお願いしたいと思います。

第3には、ダムの決壊を前提に危ないという意見が出ていることとありますが、これは、かねてからダム反対の立場の皆さん方からも、ビラによる反対運動もございましたが、ダムは十分な調査や検討をした上でつくられるものでございます。私たちは、実際に自分たちの目で他のダムをたくさん見学もしてまいりまして、これでは大丈夫だという自信と確信を持っております。また、和泉市の広報でもダムについていろいろと掲載されておりますが、より一層のPRを重ねまして、正確な知識を広く皆さんに知っていただきたいと存じております。

最後に、前回十分に申し上げられなかったことについて申し上げます。ダム事業に同意して約5年半になります。この間に私どもはダムに関する測量、あるいは土質の調査、用地の調査と、いろいろと官民一体となって協力してまいりました。平成10年9月までには用地の立会いは終了し、用地買収の段階まで来て、進歩が止まっております。ただ、本当に残念でありませんが、事業の再評価ということで、その後の進歩を全くしておりません。もちろん、長期にわたる事業を第三者の目で再評価するということは重要なことでありまして、我々もよくわかっており、委員の各先生方の熱心なご検討をいただいていることも承知しております。また、このような意見陳述の場を頂きまして、本当に感謝いたしてい

る次第でございますが、しかしながら、実際にこの事業の必要性を理解し、協力していこうという我々地元住民にとりましては、地元住民のほとんどが同意し、一日も早くダムが進歩するように切望している現在に至って、事業の進歩が止まっているということは残念でなりません。ダムという事業は、非常に長い時間を要する事業でございます、再評価の対象は、事業の着手から5カ年を経過して、用地買収ができていないという事業と聞いております。我々は平成7年度から基本的にダムに前向きに協力してまいりました。しかし、府や市の説明について、我々はわかっていることはわかっている、わからないことはわからないということでもいろいろと申し上げまして、これだけの時間がかかったということは、それだけ大阪府や和泉市、また地元住民の十分な話し合いがあつてからのことだと考えております。どうかひとつ委員の各先生方にも、そのような進歩状況であることを、十分考慮をしていただき、我々の地域の安全に必要な槇尾川ダム事業の円滑な推進を心からお願い申し上げます、誠に駄弁でございましたが、私の再度の陳述を申し上げます。ありがとうございました。

(追加意見)

まず、平成7年度のあの水害の折に大きな被害が起きました。その時点から、地域の私たちの村でも反対する人がなくなってきました。それが何というんですか、幸か不幸か、試験台みたいな格好になりまして、この状態であれば、やはりダムが必要だとみんなが口をそろえて言いだしまして、この前に署名活動をしたんですが、120軒ある大畑町で(署名しなかったのは)たった3軒だけしなかった。坪井町で200軒あるんですが、2軒だけでした。仏並町で、町会長から聞くところによりますと、8割の署名を頂いたということです。これは決して私たちが強要したことは何もないんです。ただ、回覧でぱっと回して、短時間でつくりあげて、知事さんのところに陳情したわけでございます。そういうことで、地元としては、決して反対もなく、ただ一日も早いダムの建設を心から願っておるわけなんでございます。先ほど父鬼のお話も出ました。この地盤が柔らかいためにダムはできないということもちょっと耳にしております。我々としては、そうしたことで、決して父鬼に行ったものをこっちに取りつたものでもございませぬ。ただ、地盤として、この地域として一番いい場所であると聞いております。それと、2年前まで私は森林組合長をしておりまして、国定公園の認可とともに、林道整備の予算を年に5億ずつで10年計画でやるようになって、現に2年ほどやっております。それができたら、防火用に小規模のダムを2つくらいつくろうという話が出ております。これはまだ正確には出ておらないのかもしれませんが、地元の森林組合ではそういう話も出ております。

それから、そして私はいつも思うんですが、槇尾川は水が出る割に、狭くて、浅いように思うんです。だんだんと大川橋から下の垂井橋、それから神田橋方面まで川が浅くなっているような感じがしております。本当に地元としては、何とか一日も早くやっていただきたいということで、先日の台風の時でも、あちらで100mm、こちらで200mmという雨が降っております。そのときには、テレビを見るたびに、この雲がいつ何時我々の空に来るかもわからんということから、いつもおびえるというか、もし大きな水害がございましたら、なぜもっと早くダムをつくられなかったか、大きな責任問題にもなりかねないと思っております。どうかひとつ、よろしくご支援下さいますよう心からお願い申し上げます。ありがとうございました。